

総社市立総社中学校いじめ防止基本方針

令和7年 4月 改定

いじめに関する現状と課題

・本校は小規模な小学校から入学した生徒の集まりで、固定化された人間関係がそのまま続いていることも多くみられる。そのため、人間関係づくりがうまくできず、トラブルが起こった時に集団で相手を傷つけたり阻害したりする心配がある。深刻ないじめに発展しないよう全教職員がいじめを許さないという認識のもと、普段の生徒との関わりや観察を行い未然防止の行動をとり、いじめの早期発見に努める。生徒指導、教育相談を中心に迅速な対処の構築をしていく。

いじめ問題への対策の基本的な考え方

・いじめ対策委員会には、校長、教頭、教務主任、当該学年団、生徒指導主事、SCC、養護教諭、学年生徒指導、学年主任、SCにて構成する。そして、情報の共有、迅速かつ適切な対応を行う。  
・年9回の学校生活アンケート、学期に1度の教育相談期間を実施しいじめの早期発見に努める。SC、SSWの活用も含めて情報の共有、早期発見に努める。  
・休み時間の校内の見回り、登下校指導を組織的、計画的に行い生徒の観察に努める。  
・スマートフォンやインターネット等の使用について保護者啓発や生徒対象の情報モラルの授業や講話などを実施する。  
・小中一貫学びの向上プランを実施し、小中連携を深めるとともに学習規律、生活態度の向上に努める。  
＜重点となる取組＞  
・協同学習、ピア・サポート、品格教育、SELを実施し、人への関わり方や接し方を身につけることができるように支援する。

